

新年明けましておめでとうございます

昨年は、東日本大震災により我が国はいまだかつてないような困難に立ち向かうこととなりました。原発事故による放射能の影響は深刻なものになり、真の意味での復旧・復興を築き上げる過程においては国を挙げての地道な努力の積み重ねが求められることになると言えましょう。

昨年の言葉として「絆」が選ばれました。私もこの言葉はこれまでも高度経済成長期におけるコミュニティの崩壊が言われ始めた時なども含め幾度となく耳にしてきました。

「絆」は、人が幸福になるための目には見えない「仕掛け」なのかもしれません。気持ちや意思等を伝えるための言葉と同じように、人が自分自身を幸福と感ずることが出来る時を作り出す源になるのが「絆」なのかもしれません。それは、個人と個人の関係に留まらず、地域と地域、町と町、さらには国と国へと広がりをもっていくものでしょう。

複雑な国際関係、安全保障環境の中で我が国の安全保障を考えていく上でも、この「絆」の持つ意味を、一度じっくり考えてみることは無駄ではないような気がします。



平成二十四年一月四日
近畿中部防衛局長
田 淵 眞 二